

2020年12月15日

各 位

会 社 名 東京センチュリー株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 野 上 誠  
(コード番号 8439 東証1部)  
問 合 せ 先 広報 I R 部長 山 下 圭 輔  
(TEL03-5209-6710)

## アドバンテッジパートナーズとの共同投資第一号案件について

当社は、2019年10月に発表した株式会社アドバンテッジパートナーズ（本社：東京都港区、以下「AP」）グループとの戦略的提携に基づく、共同投資第一号案件に係る契約を締結しましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、本共同投資案件の詳細につきましては、2020年12月15日付で開示しております「アドバンテッジパートナーズ、ユーグレナ、東京センチュリーの3社が、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスからキューサイ株式を共同取得することで合意」をご参照ください。

### 記

#### 1. APグループとの戦略的提携

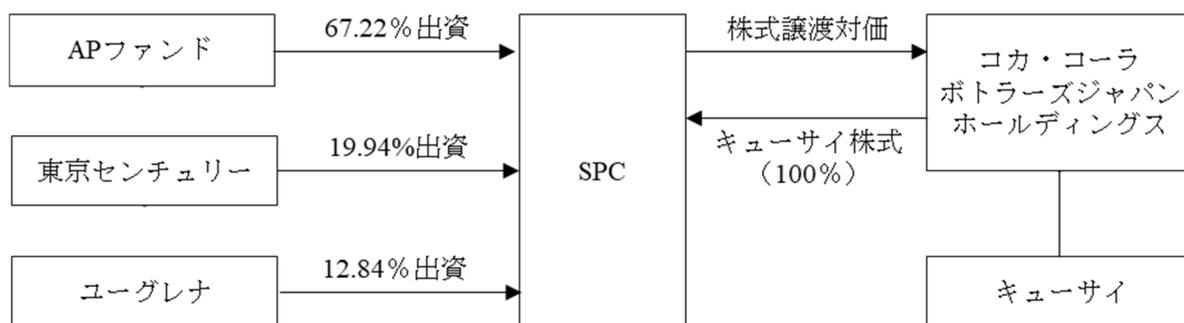
当社は、プリンシパルインベストメント事業をさらなる成長が期待できる分野と捉え、近年の中堅・中小企業における「事業承継ニーズ」や、大企業における「事業の選択と集中」の重要性の高まりを背景とした「カーブアウトニーズ」など、当社のお取引先が抱える課題や経営戦略・経営改革へのソリューションとして、推進することといたしました。2019年10月には、プリンシパルインベストメントビジネスへの本格的参入のため、日本のプライベート・エクイティファンド業界におけるリーディング・カンパニーであるAPグループと、戦略的提携を行うことを決定し、2020年7月にAPグループ持株会社の発行済普通株式の14.9%の取得およびエクイティファイナンスの引受けを完了しております。

なお、APは、アジアベンチャーキャピタルジャーナル（以下、「AVCJ」）が主催する「2020 AVCJ Private Equity & Venture Capital Awards」において、「Mid Cap Firm of the Year award」を受賞いたしました。AVCJアワードは、AVCJ審査員とプライベートエクイティ業界関係者からの両方の投票によって選出される、アジア太平洋地域のプライベートエクイティに関する卓越したアワードです。AVCJは、APの今回の受賞理由のハイライトの一つとして、当社に少数株式を売却したことをあげており、有意義な方法で後継者育成に取り組んだ国内初めての事例であると評価いただいております。

#### 2. 共同投資第一号案件について

当社とAPグループは、戦略的提携の発表後、共同投資を含めた協業を模索してまいりましたが、今般その第一号案件として、当社およびAPがサービスを提供するファンド（以下「APファンド」）に加え、当社が2012年の上場前から出資を行うなど親密な関係にある株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、以下「ユーグレナ」）と共に、3者が出資する特別目的会社（以下「SPC」）を通じて、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社（本社：東京都港区、以下「コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス」）が保有する、キューサイ株式会社（本社：福岡県福岡市、以下「キューサイ」）の全株式を共同取得することについて合意いたしました。

## 【案件概要】



キューサイは、約250億円の売上高と約37万人の通販顧客数を誇り、55年の歴史を有する通信販売を中心とする健康食品/化粧品販売の老舗企業です。当社、APファンド、およびユーグレナは、キューサイの商品開発力、顧客基盤、そして通販ノウハウを高く評価し、3者が密に連携して戦略遂行を後押しすることで、キューサイがさらなる成長を実現するポテンシャルがあると判断いたしました。

本案件は、老舗企業であるキューサイと、当社、経営改善や事業構造転換に強みを持つAP、ESG/SDGs領域やデジタル領域に強みを持つベンチャー企業のユーグレナが手を組んで全面的に支援するという、国内でも極めてユニークな事例であり、対象会社の企業価値向上に向けて最適化されたフォーメーションとなっております。SPCへの当初出資比率は、APファンドが67.22%、当社が19.94%、ユーグレナが12.84%ですが、株式譲渡から1年以内を目途にユーグレナがSPCへの出資比率を最大49%まで高め、キューサイを連結子会社化する予定です。

当社が推進してきたパートナー型ビジネスモデルが奏功し、APグループの持株会社およびユーグレナ両社の株主かつ事業パートナーとして、本件フォーメーションの構築に貢献することができたものと考えております。国内外の事業会社への出資やパートナー企業との合弁会社設立を通じて培った豊富なPMI (Post-Merger Integration, M&A 後、当初計画した統合効果を最大化するための統合プロセス) 経験を生かし、APおよびユーグレナとの強固な信頼関係を背景に、価値観と方針を共有化したチームでキューサイの事業成長を支援してまいります。

### 3. 今後の展望

当社は、パートナーシップ戦略に基づくAPとの連携による協業を当社の事業戦略の柱の一つに掲げており、約5年間で300~400億円を目処にAPとの共同投資を行っていく考えです。当社・AP双方において、社会課題の解決によるSDGs達成への貢献に資する投資対象案件のソーシングを行っておりますが、当社のお客さま・パートナー企業のカーブアウトニーズ、事業承継ニーズならびに事業投資ニーズの発掘により一層注力し、APと協働することにより、当社プリンシパルインベストメント事業の発展を目指します。

また、当社は航空機事業についても、コロナ後を見据えた当社事業戦略の柱の一つとして、航空機市場の長期的成長を取り込んでいくことを展望しております。ユーグレナが製造するバイオ燃料は、ミドリムシ (学名: ユーグレナ) などの微細藻類油脂や使用済み食用油を主原料とすることで、大気中のCO<sub>2</sub>を増加させないカーボンニュートラルという特徴があり、従来の燃料に比べてCO<sub>2</sub>排出量を大幅に抑制することが期待されております。ユーグレナが進める「国産バイオジェット燃料の実用化」は、航空業界の中長期的な成長に向けた環境対応強化に寄与するものであり、今後もユーグレナを株主・事業パートナーとして支援することにより、当社航空機事業のさらなる推進に向けたシナジーを追求してまいります。

以上